



改覚翁居士追福狂句會

大字赤井小字讀込
北窓庵正南宗匠撰

光明遍照日渡の御倉靈
赤井 川洲
君が御代内様へ根に昔
赤井 喜代子
旭さす瑞璃の光りや赤井
赤井 其山
仁の御代内外に徳
赤井 貞非
君子も常任運臺の極樂
赤井 清風
民草も茂る深道に露の仁
赤井 正南
農産も豊登り渡り能き赤
赤井 春風
語荷山なす登展の赤井
赤井 川洲
魂祭り田町に香る華の寺
赤井 美光
乙姫の御燈光る關御井
赤井 川洲
寶湯の池や常住の民豊か
赤井 喜代子
横道路ます極樂へ行く翁
赤井 美光
大門開放福徳の入る赤井
赤井 光月
赤井の清涼歌原や柳川
赤井 川洲
烟子深流れば盡きぬ功徳
赤井 川洲
風流になびくも優し柳川
赤井 貞非
村内安全息災の不動堂
赤井 光月
産業に富む赤井村大作
赤井 春風
諸荷出なす大倉ある赤
赤井 貞非
日渡しの夏も涼し柳風
赤井 光月
日渡りが能く田中の稲
赤井 川洲
合す手に燃え思ひの不動
赤井 貞非
五畝四石能く實の遠入
赤井 光月
九反坪の平道 光月
大平の梨園努力の嶺に成
赤井 川洲
大倉の開闢と鶴のはし
赤井 喜代子
窪田にも高低くはなし酒
赤井 川洲

白馬の雪

松本徳一吟
電話(平)五七二

是まで難みに難み居たる
はまは日通達す六六
しの不眠ありとも顔に出
す平和を願へ七赤次第
ついに勢ひ付き来る入學
店名弘吉八八八 思惑の
實手に手を出すときは意
に失敗す九紫 吉連の過
なれども我意を張る時は
もろ

死を起す者
(97) 三上於菟吉作
布施平八郎著
遺 (四)
皆んなに慰められ力つけ
られたる子もここに初め
て身を起した女性の涙を
よらしてやるには、やはり女の
知りた時彼の女の眼にはあなたを恨んで居たものは誰か
も話を短刀直入に進めて行
くには矢張り村越のつづき
「娘もさつと、何時もあの
の姿を新つて居るに違ひ
ひびきませぬ。手あはすし
るは、あつたつて、



僕達は——和子さんしろなれを教はせたのはこれま
妙子さんしろ、どれほどつた江馬君の氣持が運
あなれに迷ひたつて居た命を動かしたのでせう」と
か分からないのです、勇村越は言つた
の其の後の事に就ても、あ
なたには知らせてあげた、この娘は村越の居から
たいと思ふこともあつたが、もれた今の言葉とどう言ふ
周囲の事情でも御存じ
の通り全く出来なくなつての影がこの十六娘の頬に
了つて居た——こへ彼がらしはしなかつたであらう
水久の不辛を忍ばなければかと言へ妙子は、たゞ清
ならぬにせよ、幾らかかな思ひ遣りの眼、膝の
かかぬ道に進んで居ると上下ハンケチをまきつて
聞いたなら、あなたにも喜ぶ、と、妙子の若白い指
んで呉るに違ひありません。眺めて居た、現在の妙子
勇の名が口に出ると、人から妬みを受けるには餘
た時、と、妙子の紙のやうにに、幸であつた彼女は、
若さの顔には、と血の涙、彼女自らの苦しい運命に
かのぼつた他の一人の女性、げられてたつた今身へ投
は、黙つたまま深い憂鬱な眼げようとした絶望の子であ

耳鼻咽喉科

合津醫院

平町仲町七二

元祿

大販賣店 山野邊藥局
平町五丁目角

外科光線専門科

上田外科醫院

平南町
電話一三九

曲煙茶山

廿六日より上映三大名畫番組
時雨笠
人の世の姿

不老長生

蜂ブドウ酒

平四丁目

市原醫院

内科、小兒科、市原卯太郎
外科一般、婦人科、市原陸郎
外科、梅毒、淋疾、市原三三男
皮膚、病、市原三三男
平町田町本通
(入院隨時) 電話一四番

糸毛

本年は昨年より
御安う御座います
毛糸見本帳進呈
一オンス 十五錢
一オンス 十八錢
一オンス 二十五錢
(中細・極細・スコ
ツチ等) 深山
入荷致しました

村松

内科、外科、皮膚科
淋病、梅毒、皮膚病
専門科

相帽と冬帽

モダンな若人向
スマートな紳士向
東帽製フアー 七、八〇
イタリー製 七、八〇
ペロアー 一、五〇ヨリ
ツルヤ
平四丁目

吉田屋呉服店

素晴しい好評!!
婦人世界
近現代調銘仙大賣出し
八王子文藝銘仙大賣出し
特長一、何れも最高級ノ糸最高級
ノ染料 生地ハシナヤカデ非常ニ丈夫デ
一、藝術味溢レル柄行揃ヒニテ流行ノ先驅
一、柄ガ長ク、巾ハ充分デ、丈ガ長ク、而シテ
廉價ナリニ興味深ク大贈賞品付デス
平町カジ町

